

特産「高尾」贈答用に 作柄検討 濃度高く

掲載日：令和 7 年 8 月 20 日（水）

日野市果実組合は 8 月上旬、日野市内のブドウ畑 9 園で特産品「高尾」の品質を確認する作柄検討会を開いた。

同検討会は贈答用の高品質なブドウを生産するため、毎年開いている。東京都農林総合研究センターと南多摩農業改良普及センターの協力で品質検査をしてから販売開始日を決定しており、今年は 12 日に販売を開始した。

枝元と枝先からブドウ 2 房を採取して糖度を測定した結果、平均 21 度と非常に良い結果となった。

一方、今年は猛暑や降雨量が少なかったため、1 房 500 グラム未満のものや、着色が遅れているものが例年に比べて多かった。着色遅れは夜の気温が高いことが原因の一つと考えられ、今後も高温対策が課題となった。

同組合の奥住方彦組合長は「天候の影響は避けては通れないものとなった。栽培技術を上げ、高尾ぶどうを守っていききたい。また、暑さに強い新品種の栽培にも挑戦したい」と話した。



高尾ぶどうとシャインマスカットの品質検査（東京都日野市で）